

R7系井小 学校評価（後期結果） 児童・保護者・教職員3者比較

★学校全体としての傾向を読み取るため、学年・学級ごとの結果等を掲載していません。

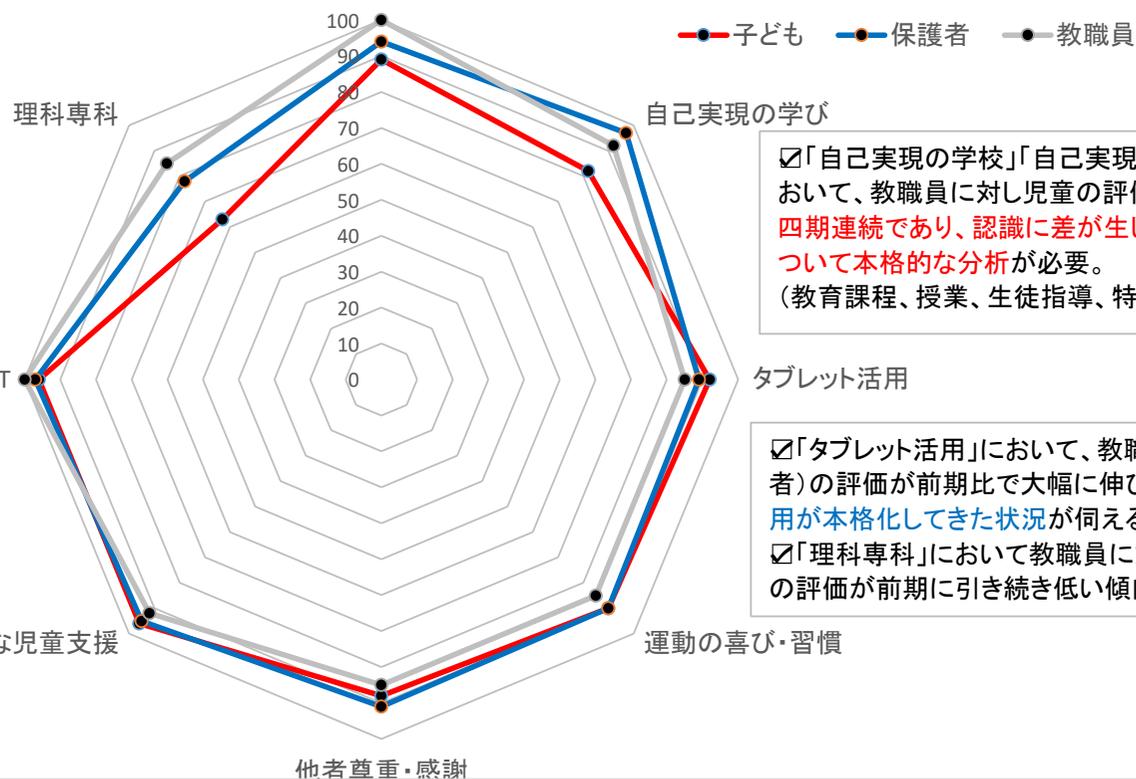
前期比10%以上 前期比10%以下

1. 学力・体力の向上／豊かな心の育成（肯定的回答数の割合 % ＊概数表示） 青字：肯定的回答85%以上 赤字：肯定的回答65%以下

	自己実現の学校	自己実現の学び	タブレット活用	運動の喜び・習慣	他者尊重・感謝	適切な児童支援	外国語専科・ALT	理科専科
子ども	89	82	92	90	88	96	96	63
保護者	94	97	89	90	91	95	97	78
教職員	100	92	85	85	85	92	100	85

1. 学力・体力の向上／豊かな心の育成（3者比較）

自己実現の学校



☑全体的に三者における肯定的評価が多い。但し一部に落ち込みや三者の乖離が見られる。
 ☑「適切な児童支援」「外国語専科・ALT」において、三者とも高い肯定的評価である。特に「適切な児童支援」は、個々の児童への細やかなサポートが評価されていることを意味しており、本校の教育を支える中核的な強みと考えられる。

☑「自己実現の学校」「自己実現の学び」において、教職員に対し児童の評価が低い。四期連続であり、認識に差が生じる要因について本格的な分析が必要。（教育課程、授業、生徒指導、特別支援等）

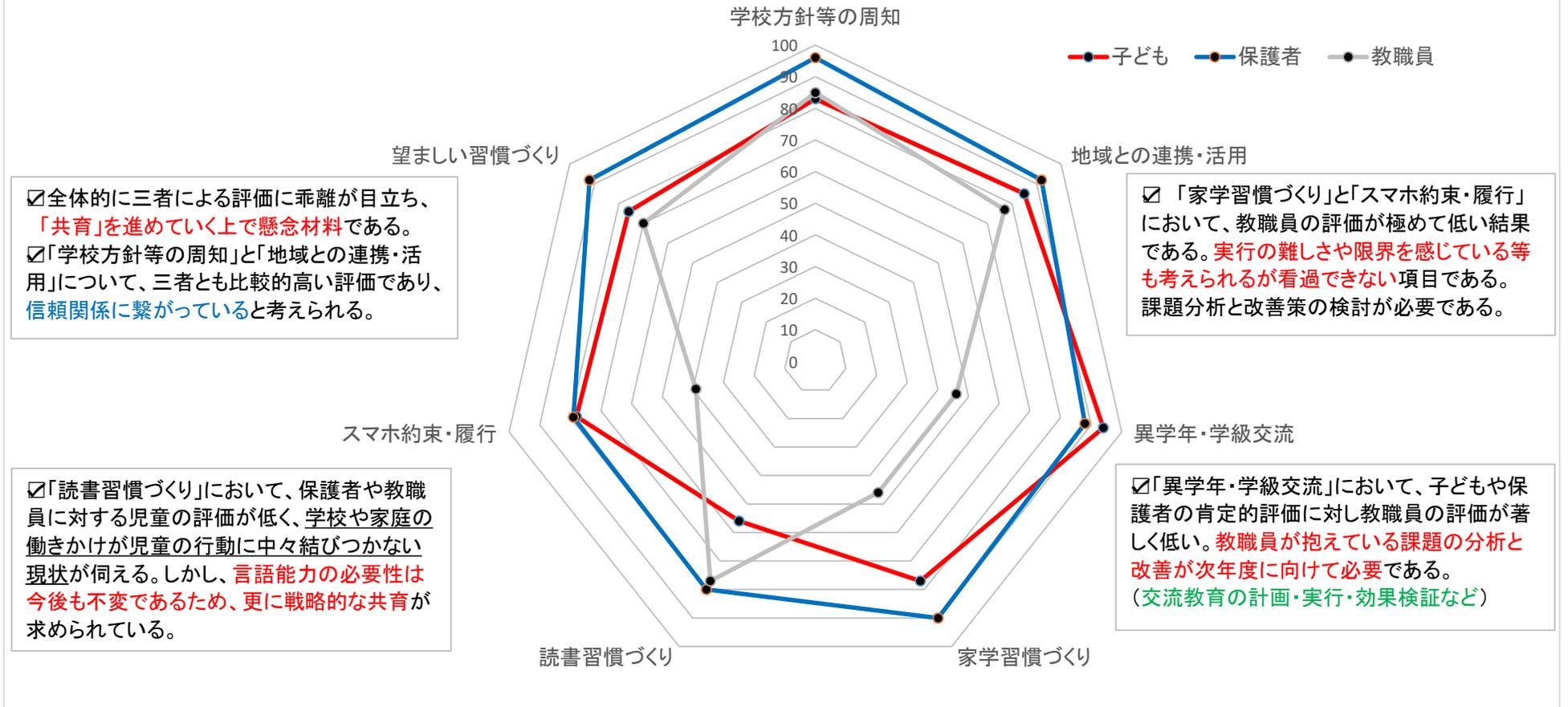
☑「適切な児童支援」に対して「自己実現の学び」が低い評価である。児童支援が学びに結びつかない要因について多角的な分析が必要。（教育課程、授業、生徒指導、特別支援等）

☑「タブレット活用」において、教職員（保護者）の評価が前期比で大幅に伸びた。ICT活用が本格化してきた状況が伺える。
 ☑「理科専科」において教職員に対し児童の評価が前期に引き続き低い傾向。

2. 家庭や地域との連携 (肯定的回答数の割合 % *概数表示) 青字:肯定的回答85%以上 赤字:肯定的回答65%以下

	学校方針等の周知	地域との連携・活用	異学年・学級交流	家学習習慣づくり	読書習慣づくり	スマホ約束・履行	望ましい習慣づくり
子ども	83	85	94	77	56	78	76
保護者	96	92	88	90	80	79	92
教職員	85	77	46	46	77	39	70

2. 家庭や地域との連携(3者比較)



R7 系井小 学校評価(後期)～保護者の意見と学校の見解～

保護者様の意見(記述内容)を整理・要約し、学校の見解と併せて以下に掲載します。

1. 学校との連携に対する感謝と期待

- ・子供の成長に不安になることもあったが、学校と連携をとることで、一緒に育てていただいているという気持ちになることができてありがたかった。
- ・子供の心に寄り添いながら、必要なことは(学校でも家庭でも)伝え続け、未来への自立に向けて一緒に考えてくださる方々に感謝します。

★学校と連携して「共育」を進めていこうとする皆様の姿勢は、教職員にとって大きな励みになります。家庭教育の第一義的責任者は保護者であり、効果的な教育は保護者の協力無くして望めないからです。これからも、保護者からの信頼と協力をいただきながら、学校としても一生懸命に取り組んでいきたいと思いを新たにしているところです。

2. 教育活動に対する意見

- ・地域のお店を訪問する授業がたいへんありがたい。ご協力にお礼を申し上げたい。

★地域は子ども達の学びを広げ深めていく大切な教育環境です。高学年ではオンラインによる出前授業にも取り組みました。子ども達にとって効果の高い活動を目指して試行錯誤しています。

- ・学校での日常的な子どもの姿をもっと見てみたい。
- ・運動会で保護者や地域の方を巻き込む種目があっても良い。
- ・マラソン大会廃止に伴って2週間ほどあった走る取組がなくなり、体力向上を実感できる機会が無くなったので残念。
- ・お別れ会をしたいができず残念。集金や印刷配布ができないので…。

★限られた時間や制約の中で、国が定める「学習指導要領」の目標や内容を達成していくことが求められています。併せて、「教職員の働き方改革」についても加速化が求められています。そのため、子ども達の自己実現や社会自立のために最も重要なことを見定め、精選しながら教育活動を進めているところです。ご要望の全てにお応えすることはできませんが、皆様の意を汲みながらより良い教育活動を目指してまいります。

3. 安全確保への要望

- ・(12月の地震)授業中に緊急地震速報がなった時に子供の安全を教えてほしい。
例)体育館に避難した 津波の心配がないので授業継続 など。

★子どもの安全にかかわるご心配については可能な限り配慮していきたいと考えています。但し、さくら連絡網の多用によるデメリットも考えられますので、連絡する上での基準を設けて対応するなどの検討を進めてまいります。

アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

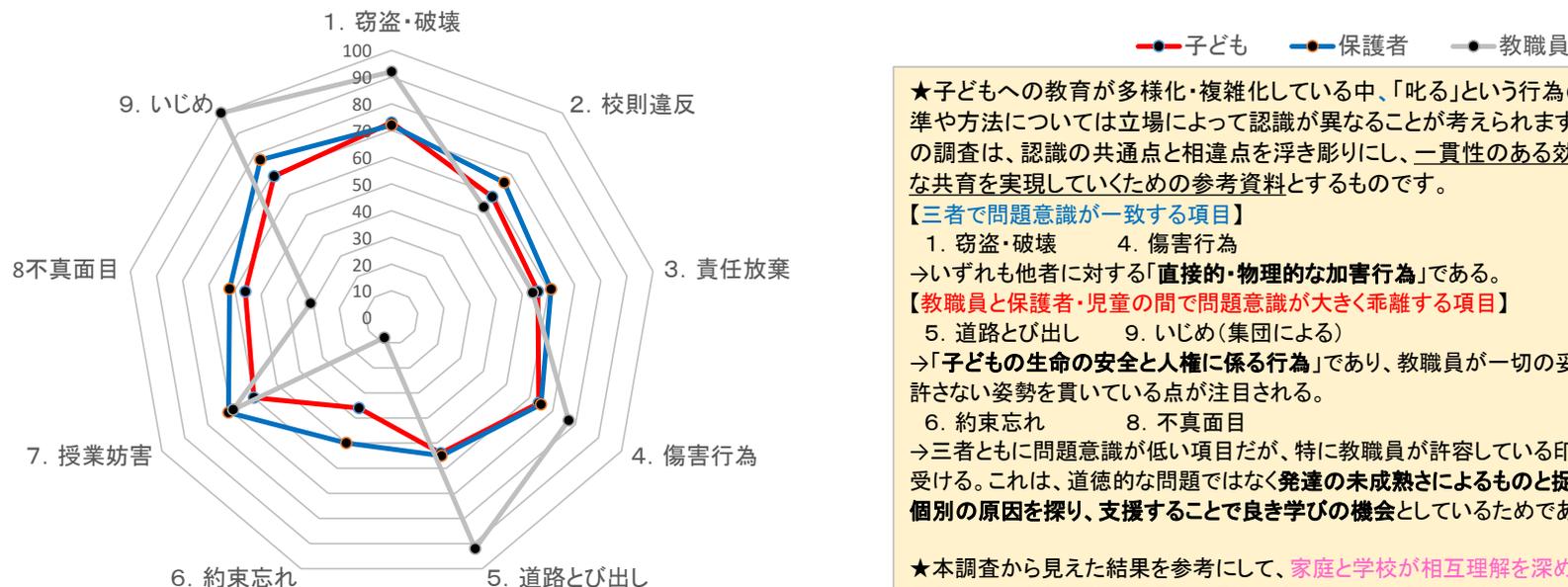
R 7 叱り方に関する意識調査（特設）高学年児童・保護者・教職員3者比較

★学校全体としての傾向を読み取るため、学年・学級ごとの結果等を掲載していません。

毅然と叱る・叱られるべきと回答した割合(%)

	1. 窃盗・破壊	2. 校則違反	3. 責任放棄	4. 傷害行為	5. 道路とび出し	6. 約束忘れ	7. 授業妨害	8. 不真面目	9. いじめ
子ども	73	59	56	64	54	36	60	56	69
保護者	72	66	61	65	55	50	71	62	77
教職員	92	54	54	77	92	8	69	31	100

叱り方・叱られ方(3者比較)



★子どもへの教育が多様化・複雑化している中、「叱る」という行為の基準や方法については立場によって認識が異なることが考えられます。この調査は、認識の共通点と相違点を浮き彫りにし、一貫性のある効果的な共育を実現していくための参考資料とするものです。

【三者で問題意識が一致する項目】

1. 窃盗・破壊 4. 傷害行為

→いずれも他者に対する「直接的・物理的な加害行為」である。

【教職員と保護者・児童の間で問題意識が大きく乖離する項目】

5. 道路とび出し 9. いじめ(集団による)

→「子どもの生命の安全と人権に係る行為」であり、教職員が一切の妥協を許さない姿勢を貫いている点が注目される。

6. 約束忘れ 8. 不真面目

→三者ともに問題意識が低い項目だが、特に教職員が許容している印象を受ける。これは、道徳的な問題ではなく発達^①の未成熟さによるものと捉えて、個別の原因を探り、支援することで良き学びの機会としているためである。

★本調査から見えた結果を参考にして、家庭と学校が相互理解を深め、子どもの健やかな成長に役立てる機会となることを期待します。

【共通の設問項目】

あなたが、「特に子どもを厳しく叱るべき時(大人)」「叱られるべき時(児童)」はどんな時だと考えますか。以下の回答例から、最低1つ以上選択してください(複数回答可)

※個人の回答結果を公開することはありません。

回答1: かってに他人の物を盗んだり、壊したりした時。

回答2: かってに学校にお菓子やゲームを持ちこんだ時。

回答3: 給食やそうじ当番、委員会などの仕事をさぼった時。

回答4: 友だちとケンカして殴ってケガをさせた時。

回答5: 横断歩道のない道路で、左右の確認もせずとび出すように横断していた時。

回答6: 約束していた学習道具や宿題を忘れた時。

回答7: 授業中に大騒ぎをして周囲に迷惑をかけた時。

回答8: 授業中、1人で黙々と授業に関係ないことを続けていた時(居眠りや折り紙など)

回答9: 1人の友達に数人で無視や悪口を続ける時。